

を目標とした理想（IDEA）の実現に向け、知恵（Idea）を生かした実行力の展開により「自然と文化が織りなす輝きの大地」「PRIME TOWN まちづくり計画」の実現に努めます。

### 第3 コロナ禍の後を目指しての挑戦「経済回復と中心市街地の活性化」

コロナ禍は町の観光サービス業、木工クラフト業、そして教育の分野においても大きな影響がありました。ポストコロナ、そしてポストオリンピックに向け、総合的に経済回復を図ることができるよう機構の充実を図り、ハードとソフトの両面から取り組みます。合わせて中心市街地を更に快適な価値ある空間とするための整備を進めます。

#### 1. 観光サービス業が安定し、持続できる振興

北海道の先住民アイヌ文化の映像などを通じて、視覚、聴覚など五感に訴えることができると紹介に取り組みます。東川振興公社と連携し、映画制作協議

会を立ち上げ、映画監督菅原浩志氏などと国内外に対して北海道アイヌ文化の魅力発信を準備し、世界の人々の動きの回復に向け取り組みます。

#### 2. 家具クラフトデザイン業の振興

建築家・隈研吾氏など国内外で活躍する建築、デザイン関係者と連携し、家具などの製造業の振興を図ります。また観光分野との相乗効果の発揮にも努めます。

ア、家具デザインコンペの実施、椅子の日制定と総合的な町産業PR  
ウ、デザインミュージアム実現の加速化

#### 3. テレワーク空間などの整備

2012（平成24）年3月に東川町商工会、街なか活性化推進協議会から提言のあった「街なか活性化構想計画書」を尊重し、その実現に向け、企業版ふるさと納税などを活用し整備に努めます。地方創生推進交付金を活用したテレワークができる

施設の充実にも挑戦します。また建築家隈研吾氏と連携し、企業版ふるさと納税などを活用したデザインミュージアムの実現に向け、具体的な取り組みをスタートさせます。

#### 第4 地域コミュニティ活動等の充実

小学校通学区などをベースとした地域自治振興会の自主的な「共に」支え合う活動などを支援し、パートナー機能の充実に努め、地域住民の福祉向上に引き続き取り組みます。

#### 1. 地域コミュニティカーの試行効果と次へのステップ

適度な社会で暮らす大きな課題の一つに高齢化や児童・生徒など交通弱者対策があります。昨年、第一自治振興会が開始した「あじさいみまもりカー」の試行的な運行と、旭川電気軌道バスのトランジット化に合わせた交通体系の具体的なあり方を引き続き検討します。

山動物園、川村カトアイヌ記念館などを結ぶ周遊観光の推進に取り組みます。

#### 2. 東川ミーツや酒蔵と連携した消費純増の推進

昨年、東川振興公社が新たに連携した2か所の東川ミーツや、岐阜県中津川市から移転した三千櫻酒造との連携充実を図り、更なる東川産製品の消費拡大に取り組みます。

#### 3. ふるさと納税制度とインターネットを活用した消費純増の推進

東川振興公社と連携し、家具やクラフト、酒類など東川で生産製造されている製品の特産化ブランド化に努め、ふるさと納税制度とインターネットを活用した販路と消費の拡大に取り組みます。

#### 第8 財政運営の健全化

「賢明、堅実、健全」という3KEN行政の持続的展開を目指し、更なる行政サービスの向上と未来への安定化に努めます。また、東川振興公社と引き続き

#### 2. 行政のデジタル化と地域との連携

行政事務のデジタル化を画面的に進め、防災のための情報共有、情報交換などができるような仕組み、住民サービス向上のための効率的な仕組みづくりに取り組みます。

#### 3. 高齢者の外出支援と居場所整備

民間からのトレーニング専門職員の派遣活用により、介護や疾病予防とトレーニング指導者養成に取り組みます。また高齢者の外出支援やコミュニティセンターの活用促進、若者交流の展開も目指します。また住民の老若男女が生涯にわたり学び、体験することができると共生施設の整備にも財源確保に努め、着手する計画であります。町づくりを持続化させるためには世代間において住宅や宅地の引き継ぎ循環が円滑に展開されること

が重要となっております。住み慣れた住宅や宅地を次の世代へ引き継いでも、東川町で安心して暮らすことができる居住空間の整備にも努めます。

#### 第5 子育てと教育の充実

教育委員会と十分連携し、子育て支援の充実にも努めます。また東京にあるHOKURIKU（野口研二社長）が行ってこられた5年間にわたる東川町への寄付を踏まえ、今後更に10年間には継続したいとの意向を示されており、この寄付を財源として大学等進学への給付型奨学金の継続と充実を図ります。今後10年以降に向け、野口社長の意向に沿った学生支援が町でも継続できるように財源の積み立ても検討します。

更に、1億総活躍時代に最も不足する福祉人材を育成するため、ふるさと納税「日本福祉人材育成プロジェクト」を活用し、旭川福祉専門学校に入学者に対する奨学金を給付します。

#### 第6 写真文化首都「写真の町」東川町の価値向上

「首都は東京だけじゃない。東川もある」を掲げ、写真文化首都「写真の町」東川町の価値が一層高まるように地方創生推進交付金、ふるさと納税、その他国などの交付金等を活用し取

り組みます。

#### 1. 文化財指定と文化財の活用促進

教育委員会と連携し、「写真の町」東川賞の寄贈作品などの文化財登録を目指すとともに、登録文化財の利活用に取り組みます。

#### 2. ギャラリー「ZEN」と松田与一彫刻記念館（仮称）の改修

昭和を代表する建造物として文化財登録を予定しているギャラリー「ZEN」の改修および松田与一彫刻記念館を文化財展示などの拠点、またリモートワークとしても活用できる複合型施設としての整備を目指します。

#### 3. キトウシ保養施設（仮称）の新設とケビンの増設

老朽化したキトウシ高原ホテルについて、令和4年度を目標にキトウシ保養施設としての新たな整備に努め、併せて、ホテル機能を集約するためにケビンの増設を引き続き進めます。

### 第7 産業振興

東川町は第1次産業の農林業、第2次産業の家具製造業、建築土木業、第3次産業の観光サービス業がバランスよく構成されています。3つの産業振興が相乗効果を発揮できるようにJAHがしかかわ、東川町森林組合、東川町商工会、ひがしかわ観光協会、東川振興公社など関係機関・団体と連携し、ふるさと納税制度を活用した公共的団体などの投資、民間の起業化支援の

あり方について検討を進めます。東川町の「大雪山文化、家具デザイン文化、写真文化」を最大限に活用し、また町立日本語学校と北工学園の連携により、福祉や産業、教育分野で活躍できる人材の育成と雇用の確保に取り組みます。上記の第3に掲げることの実現と波及効果の拡大にチャレンジします。

#### 1. 新たな周遊スポット観光の推進

旭川空港、JR旭川駅から中心市街地、旭岳・天人峡温泉地区、忠別湖、三千櫻酒造、中心市街地、キトウシ森林公園、旭

連携充実を目指し、相互の経営健全化を進めます。

#### 1. 財源確保

税金など自主財源の確保は元より、地方交付税（普通交付税と特別交付税）や地方創生推進交付金などの財源確保に努め、投資から新たな財源を確保できるように取り組みます。また、ふるさと納税（個人、企業）の確保にも努めます。

#### 2. 起債管理と財産管理

起債発行に当たり、一般財源充当借入額が前年を上回ることはないように配慮（プライマリバランスの維持）し、かつその総額が4億円以内となるように努めます。公共施設の維持補修などの将来負担に備え、普通交付税（人口増加分算定）、ふるさと納税の定率、特別交付税（文化財算定など）の一定額を公共施設整備基金への積み立てに努め、令和4年度までに文化ギャラリーの投資分をふるさと納税から、せんとびゅあ投資分を土地開発公社からの減債基金への積み立てを行います。また

第5に掲げる大学進学の奨学金財源について内部検討します。

#### 3. 施設運営費確保

施設の管理運営費は住民だけが負担する考えではなく、「住民十交流人口（関係人口）」で負担を共有できるようにこれから努めます。また本町が所有している各種の固定資産の貸借対照関係を明確化し、適正な管理に努めます。

#### 第9 チーム東川町役場

職員は常に意識を高く持ち、知恵を出し、挑戦し、適度なまちづくりの実現を目指しています。今年度も議会との「連携力」を生かし、目標達成に向かって横断的な連携の強化により「東川」だからできる東川スタイル行政を目指し、町づくりを着実に進めたいと考えています。終わりに、住民並びに議会の皆様の深いご理解とご支援をお願い申し上げます。

令和3年3月

東川町長 松岡 市郎